

厚生労働省科学研究費補助金（がん対策推進総合研究事業（がん政策研究推進事業））
分担研究報告書

臨床栄養スタートアップ講座教育プログラム開発に関する研究

研究分担者 谷崎 典子

武庫川女子大学 栄養科学研究所 助手

研究要旨

若手医師が、がん患者の栄養学的特徴や臨床栄養の基本的知識を習得するための「臨床栄養スタートアップ講座」教育プログラムの企画・開発を行った。スタートアップ講座は講義と症例検討グループワークの構成で試行し、プログラムの改善を図るために受講者にアンケート調査を実施した。特に多職種参加型の症例検討グループワークは高い評価であった。本講座を教育プログラムとして展開させていくことにより、がん患者の在宅医療を担う人材育成が可能となる。

A．研究目的

がん患者では、栄養障害が高率に起こるが年々がん患者数が増加し、早期退院・在宅医療が推進されるため地域では栄養サポートが必要な在宅がん患者が急増している。この結果、在宅がん患者の合併症併発による入院や要支援者が増加するため医療歳費の増加や在宅医療人材不足が危惧される。また、栄養障害を有するがん患者では治療効果が悪く死亡率が高いが、がん治療に関わる医師の栄養に対する意識が非常に低いことが課題として挙げられている。そこで、本研究ではがんと栄養を理解した在宅医療を担う人材育成を行うために臨床栄養スタートアップ講座」教育プログラムの企画・開発を行う。平成 26 年度はスタートアップ講座を試行し、そこで得られた改善点をもとに、来年度は教育プログラムのシラバス作成を行う。

B．研究方法

1) 「臨床栄養スタートアップ講座」の企画・開発

本講座のねらいは研修医などの若手医師を対象とし、がん患者の栄養学的特徴や臨床栄養の基本的知識を習得することおよびがん患者の在宅医療を担う医療・福祉系人材を育成することである。講座の企画にあたっては、研究代表者が委員長である日本臨床栄養学会研修企画委員会と連携し、講義形式とグループワークによる症例検討の構成とした。また、症例検討グループワークは、広域大学連携事業でのノウハウをいかし、多職種参加型のグループワークを企画した。参加者はあらかじめ提示された症例について、栄養学的な課題と短期・長期目標を検討し、講座を受講する。

2) 参加者

平成 26 年度は試行的に講座を実施するため、関西圏の約 90 施設のがん診療拠点病院に本講座の開催を案内し、参加者を募った。グループワークを多職種参加型の講

座とするため、医師以外にも管理栄養士、薬剤師等にも参加を呼びかけた。

3) アンケート調査

より充実した教育プログラムに改善を図るために、講座を受講した参加者にアンケート調査を行い、内容の見直しを行う。

アンケート調査項目：開催時期・開催地域の希望、適正な演題数、講座全体の印象、ご意見（自由記述）など（倫理面への配慮）

「個人情報保護法」を遵守した。アンケートは無記名の用紙で実施し匿名化されており倫理面での問題はない。

C. 研究結果

1) 「臨床栄養スタートアップ講座」を下記の内容で開催した。

日程：平成 26 年 11 月 30 日（日）

場所：武庫川女子大学栄養科学館

講座： 臨床栄養の ABC

がんと栄養の基本知識

特別講演：「肥満とがん：腸内細菌と細胞老化の関与について」

がん研究所がん生物部長 原英二先生
症例検討グループワーク：グループワークにより症例課題を検討し、そのまとめをグループ代表者が PowerPoint で全体に向けて発表した。

2) 参加者

当日の参加者は医師、管理栄養士、薬剤師、学生など 71 名であった。

3) アンケート調査結果

回収できたアンケート数は 34 で、回収率は 48%であった。講座の開催時期は 9 月、10 月を希望する声をもっとも多かった。また、約 7 割が適正な演題数は「3 演題」

と回答し、約 9 割が講座全体の感想を「大変良かった・良かった」と回答した。自由記述では「セミナーの内容が充実していた」「グループワークでの意見交換、特に多職種参加で多方向の意見が参考になった」「次回の講座開催への期待」の声があった。」

D. 考察

今回の研究で企画・開発した「臨床栄養スタートアップ講座」は講義形式だけではなく、多職種参加型の症例検討グループワークを導入した。課題についてグループ内で意見交換する際も他職種の意見を聞くことおよび同じ症例に対して、他のグループのまとめの内容を聞くことにより、様々な視点を獲得することができた。この点はアンケート結果からも教育的効果が認められている。一方で、開催時期については 9 月・10 月を希望する声が多く、来年度に向けて改善の余地がある。

E. 結論

日本臨床栄養学会研修企画委員会と連携し、「臨床栄養スタートアップ講座」教育プログラムの企画・開発を行った。講座の受講による知識の習得と症例グループワークによって能動的に参加することで、在宅医療の現場に求められる資質を身に付けることが可能となる。在宅医療人材の育成は喫緊の課題であり、本研究ではこれらの課題の解決のために、来年度は教育プログラムのシラバス作成に発展させていく。

G. 研究発表

1. 論文発表 なし
2. 学会発表 なし

H. 知的財産権の出願・登録状況

(予定を含む。)

1. 特許取得 なし
2. 実用新案登録 なし
3. その他 なし

添付資料

資料1：臨床栄養スタートアップ講座チラシ

資料2：症例課題の内容

資料3：グループワークのまとめ資料